

中津川市長選

藤井氏の擁立を断念

リコール 推進勢力 統一候補実現困難に

解職の賛否を問う住民投票前に岐阜県中津川市長を大山耕二氏(六六)が辞職したことに伴う出直し市長選(十五日告示、二十二日投票)に、解職請求(リコール)をした市民グループなかつがわ

一新の会と超党派市議の会は五日、統一候補として擁立を決めていた一新の会役員の藤井四郎氏(六六)の擁立を断念すると発表した。両会による統一候補の擁立は困難な情勢となった。

一新の会の菅井陽一代表は中津川市役所で記者会見し「藤井氏の擁立について両会に温度差、考え方の違いがあり、断念した」と説

明した。藤井氏の擁立は四日に開いた両会の会議では合意していたが、五日になって市議二人から異論が出たためという。

超党派市議の会の佐藤光司市議は、藤井氏の擁立に異論が出た理由を「プライバシーの問題もあるので差し控えた」と明言を避けた。

藤井氏は会見に出陣せず、本紙の取材に「答えたくない」と評している。

出直し市長選には中山氏と中川鮮元市議員(七四)、東美濃農協(中津川市)の青山節見・前代表理事専務(六〇)、平岩正光県議(五七)、産党恵那地区委員会幹任委員の木下律子氏(六八)が出馬を表明している。

手術で穴を開けた骨の整形

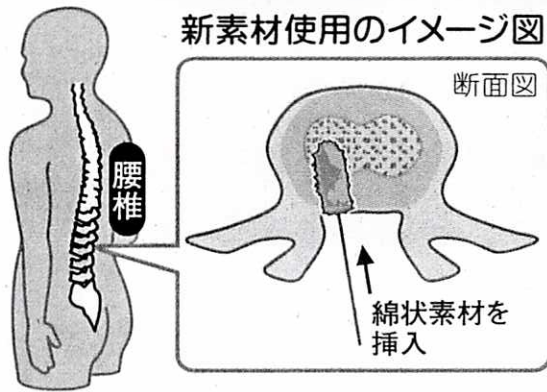
椎間板ヘルニアや骨肉腫などのがんの手術で骨に開けた空洞に詰め、早期の再生を促す綿状の新素材を、名古屋工業大の春日敏宏教授らのグループが開発した。研究レベルでは紙状の素材も同時に完成。二〇一二年中に米国で臨床試験をスタートさせる。

早期再生へ新素材

め空洞が残ってしまふ恐れがあった。新素材には骨の原料のカルシウムと細胞を活発に働かせるケイ素などを使用。材料を混ぜ合わせて、通常の繊維維の十分の一の太さに相当する直径十ミリの管は千分の一(ミ)〜十五ミリの糸状に加工し、紙や綿のようなシート状に整える。

新素材の繊維はしっかりと空洞を埋められると同時に、押し込んでも再生された細胞が入ってこられるわずかな隙間が残る太さ。実

新素材使用のイメージ図



名工大教授ら開発

実際に使った場合には体内で徐々に溶けて最終的にはなくなってしまう。

「米国内なら臨床試験をしながら販売もできず、本当は日本で臨床試験をしたかった」とを埋めた際と同じ四週話をしている。

春日教授は「高齢化が進む日本でこそ骨再生の技術が重要だ」と強調しているが、認可に十年近くかかるため、米国での臨床試験を選択した。

目で再生が始まり、素材は半年で体内から消えた。セラミックを活用する素材もあるが、再生開始まで二〜三カ月も必要となるうえ、値段が新素材の倍近い。

米国で臨床試験へ

現在の医療現場では、開いた穴に本人から取った骨を整形して詰める方法が一般的だ。しかし、患者に負担がかかるうえ、骨は硬くて整形が難しく、穴にうまく合わないた

卒業アルバム

